

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年12月22日 (2011.12.22)

【公表番号】特表2011-504474(P2011-504474A)

【公表日】平成23年2月10日 (2011.2.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-006

【出願番号】特願2010-534409(P2010-534409)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/519 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/5377 (2006.01)

A 6 1 K 31/538 (2006.01)

C 0 7 D 487/04 (2006.01)

C 0 7 D 495/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/519

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 K 31/5377

A 6 1 K 31/538

C 0 7 D 487/04 1 4 3

C 0 7 D 495/04 1 0 5 Z

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月1日 (2011.11.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

タウロパシーの診断、緩和、治療及び／又は予防のための薬剤を製造するための M n k 1 及び／又は M n k 2 キナーゼのモジュレータの使用。

【請求項 2】

モジュレータがインヒビターである、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

モジュレータが、チエノピリミジン、ピラゾロピリミジン又はピロロピリミジン化合物又はその製薬学的に認容性の塩である、請求項 1 または 2 に記載の使用。

【請求項 4】

インヒビターが、E D J 1 0 1 4 0 1 化合物又はその製薬学的に認容性の塩である、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 5】

インヒビターが、EDJ100869化合物又はその製薬学的に認容性の塩である、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 6】

タウロパシーが、アルツハイマー氏病、クロイツフェルトヤコブ病、拳闘家痴呆、ダウン症候群、ゲルストマン - ストロイスラー - シャインカー病、封入体性筋炎、プリオンタンパク質大脳アミロイド血管障害から成る群から選択される、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 7】

タウロパシーが、前頭側頭型痴呆 (FTD)、第 17 染色体に関連するパーキンソン症を伴う前頭側頭型痴呆 (FTDT-17)、ピック病、もつれ優勢型アルツハイマー氏病、皮質基底核変性、筋萎縮性側索硬化症 / パーキンソン症痴呆症候群、好銀性顆粒痴呆、石灰沈着を伴う慢性神経原繊維変性、ハラーホルデンスパッツ病、多発性統萎縮症、ニーマンピッグ病 C 型、進行性皮質下部神経膠症、進行性核上性麻痺及び亜急性硬化性全脳炎から成る群から選択される、請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 8】

タウロパシーがアルツハイマー氏病である、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 9】

薬剤が診断薬である、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 10】

薬剤が治療薬である、請求項 1 から 8 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 11】

単一治療のための薬剤を製造するための、請求項 1 から 10 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 12】

併用治療のための薬剤を製造するための、請求項 1 から 10 までのいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 13】

タウロパシーの緩和、治療及び / 又は予防のために適した少なくとも 1 種の他の薬剤と組合せての請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】

アルツハイマー氏病の緩和、治療及び / 又は予防のために適した少なくとも 1 種の他の薬剤と組み合わせでの請求項 12 に記載の使用。

【請求項 15】

他の薬剤が NMDA アンタゴニスト又はアセチルコリンエステラーゼインヒビターである、請求項 14 に記載の使用。

【請求項 16】

NMDA アンタゴニストがメマンチンであり、かつアセチルコリンエステラーゼインヒビターがドネペジル、リバスチグミン及びガランタミンから選択される、請求項 15 に記載の使用。